

在セネガル日本国大使館月報

2022年7月

主な出来事

セネガル

(内政)

- 10日、31日の国民議会議員選挙に向け3週間の選挙活動期間が始まった。サル大統領は、犠牲祭に際しての演説で、円滑な選挙活動の実施を訴えた。(10日 RFI、RTS)
- ワッド前大統領は、30日、滞在先の仏からセネガルに帰国した。国民議会選挙に投票し、野党連合を支援する予定。(30-31日 LeQuotidien)
- 31日、サル大統領は、地元ファティック市内で投票後に演説し、国民議会選挙活動は各国の監視団の参加を得て民主的で透明性がある形行われた旨強調した。(31日 RTS)

(外政)

- 23日、サル大統領は、ウクライナとロシアがトルコ、国連の仲介で穀物の海上輸送の再開に向けた4者合意に署名したことについて、6月3日のソチでのプーチン大統領との会談の目的が達成された旨自賛した。(23日 サル大統領Twitter)

(日本関係)

- 8日、サル大統領は、安倍元総理の訃報を受け弔意を表明した。(8日 サル大統領 Twitter)

ガーボベルデ

- 8日、ネーヴェシュ大統領及びコレイア・エ・シルヴァ首相は、安倍元総理の訃報を受け、弔意を表明した。(8日 Facebook)
- ネーヴェシュ大統領は、就任後始めて、旧宗主国のポルトガルを公式訪問し、両国間の関係強化について意見交換した。(27日 RFI)

ガンビア

- ECOWAS首脳会議(ガーナ)で、ガンビアのトゥーレ元国連大使が、次期ECOWAS委員長に選出された。(4日 The Standard)
- 22日、国際司法裁判所(ICJ)は、ロヒンギャ族迫害問題を巡り、ガンビアがミャンマーを提訴した事案につき、ICJの管轄権を認め、今後、審理に入る。(22日 RFI)

ギニアビサウ

- 3日、ECOWAS首脳会議(ガーナ)で、エンバロ大統領が次期議長(国)に選出された。対マリ禁輸も解除された。(4日 Africa News)
- 27日、伊澤日本国大使は、ギニアビサウのエンバロ大統領に信任状を捧呈した。(27日 日本大使館Twitter)
- マクロン仏大統領は、28日、ギニアビサウを訪問し、同国における兵士の訓練を支援し、テロとの闘いにおいてもECOWASに引き続き貢献する旨述べた。(28日 RFI)

- ・文中の「コロナ」とは特別な記載がない限り、「新型コロナウイルス」のことを指すこととする。
- ・閣僚の官職名は適宜省略した形とする。(例:タル外務・在外自国民大臣→タル外務大臣など)

セネガル

(内政)

内政一般

- 10日、31日の国民議会議員選挙に向け3週間の選挙活動期間が始まった。サル大統領は、犠牲祭に際しての演説で、円滑な選挙活動の実施を訴えた。(10日 RFI、RTS)
- チェルノ・アラサン・サル元エネルギー大臣を筆頭候補とする穏健派の諸派連合AARは、国民議会選挙において存在感を示しており、同選挙は2024年大統領選挙に向けた試金石となる。(25日 RFI)
- 国民議会選挙に向けた21日間の選挙活動期間は28日(金)で終了した。31日(日)の投票は午前8時から午後6時まで行われる。(28日 Africa News)
- ワッド前大統領は、30日、滞在先の仏からセネガルに帰国した。国民議会選挙に投票し、野党連合を支援する予定。(30-31日 LeQuotidien)
- 29日、内務省は、治安上の理由として、(国民議会選挙が行われる)31日の州間移動を禁止した。(29日 Facebook)
- 国民議会選挙では、最大票田ダカール州選挙区で、ジャス市長を筆頭とする与党連合とンドイ漁業大臣の一騎打ちとなる。与党連合比例区名簿筆頭のトゥーレ元首相は、与党勝利の場合、国民議会議長に選出の見通し。(30-31日 SudQuotidien)
- 31日、サル大統領は、地元ファティック市内で投票後に演説し、国民議会選挙活動は各国の監視団の参加を得て民主的で透明性がある形行われた旨強調した。(31日 RTS)

(外政)

二国間関連

- レイノール米国大使は、米セネガル関係は、アフリカのみならず国際場裏でも重要であり、米国による対セネガル投資の先行効果について強調した。(14日 Le Soleil)
- 14日、ラリオ仏大使は、コロナ禍後二年ぶりに国祭日レセプションを開催した。テロやウクライナ情勢にかかわらず仏セネガルの友好関係の不変を強調した。(15日 L'Observateur)
- 米国のコレット国務省顧問は、タル外務大臣等と会談し、12月の米アフリカ首脳会議に向けた協力について意見交換した。(28日 LeSoleil)
- 4年間のセネガル在任を終え離任するミンガソンEU大使は、27日、サル大統領を表敬し儀礼叙勲された。(27日 RTS)

国際情勢・国連機関支援等

- 16日、サル大統領はAU年次調整会合(ザンビア)に出席し、アフリカにおける肥料生産等の食糧安全保障、G20におけるアフリカの議席の獲得等を主張した。その帰途、大統領は南スーダンを訪問した。(17日-19日 RTS)
- 21日、サル大統領は、G20におけるアフリカの議席の獲得の必要性を改めて主張した。(21日 Twitter、22日 LeSoleil)
- 23日、サル大統領は、ウクライナとロシアがトルコ、国連の仲介で穀物の海上輸送の再開に向けた4者合意に署名したことについて、6月3日のソチでのプーチン大統領との会談の目的が達成された旨自賛した。(23日 サル大統領Twitter)

日本関連

- 4日、ジュルベルで、第三国研修「仏語圏アフリカ医療機材管理技術者能力強化フェーズ3」の開講式が行われた。(6日 Le Soleil)
- 8日、サル大統領は、安倍元総理の訃報を受け、弔意を表明した。(8日 サル大統領Twitter)
- 日本大使館で、安倍元総理の逝去に伴う記帳が始まった。安倍元総理はTICADの共同議長を務め、アベイニシアティブでアフリカの研修生を数多く日本に招聘した。(14日 Le Soleil)
- 在セネガル・チュニジア大使は、先週、公邸に於いて、アフリカ各国及び日本大使の出席を得て、TICAD8のプログラムについて説明し、意見交換した。(26日 Le Soleil)

(経済)

経済一般

- セラシIMFアフリカ局長は、セネガル訪問中、セネガル経済の明るい見通しとともに、投資分野の選定、国家債務、脆弱層への支援の不足を指摘した。(2日 Le Soleil)
- 19日、労働省は、2021年の労働統計報告書を発表、コロナ禍にも関わらず雇用が純増し多々一方、失業者が多かったのは、自動車、建設等の分野であるとした。(19日、Le Soleil)
- セネガル政府で、雨期が本格的にはじまり、道路の浸水により、路上販売等を営むインフォーマルセクターの労働者が苦境にある。(23日 RFI)

(社会)

- ダカール市のFANN病院では、麻酔使用を減らし、麻酔使用によるエイズ感染拡大を防止する取り組みを行っている。(30日 Africa News)
- バスケットボールで、セネガルから、モーリス・ンドゥール選手が日本のバンビシャス奈良へ、シェイク・モτζ選手が名古屋ダイヤモンド・ドルフィンズへ移籍する。(30-31日 LeQuotidien)

カーボベルデ

- 8日、ネーヴェシュ大統領及びコレイア・エ・シルヴァ首相は、安倍元総理の訃報を受け、弔意を表明した(8日 Facebook)。
- 18日、カーボベルデ政府は仏系企業との間で、観光業促進のため、40年にわたり4か所の国際空港等の使用権を認める契約を締結した。野党は入札を行わない等、透明性に欠ける点を批判した。(20日 Africa News)
- カーボベルデ国民議会は、ポルトガル語圏諸国共同体(CPLP)で採択された域内の人の移動に関する議定書の批准に向け、関係の国内法を改正した。(24日 RFI)
- ネーヴェシュ大統領は、就任後始めて、旧宗主国のポルトガルを公式訪問し、両国間の関係強化について意見交換した。(27日 RFI)
- ネーヴェシュ大統領は、29日、欧州アフリカフォーラムにおいて、経済危機の問題が、欧州とアフリカの関係を大きく変えることになる旨述べた。(29日 RFI)

ガンビア

- ガンビアは環境保護の観点から問題視されていたマホガニー(赤色の木材)の輸出を許可制にする旨を発表した。中国で家具の材料として高価で買い付けられていた。(2日 BBC)
- バロウ大統領は、世銀支援による医療廃棄物処理施設(ファラト)の起工式に出席した(4日 The Standard)
- ECOWAS首脳会議(ガーナ)で、ガンビアのトゥーレ元国連大使が、次期ECOWAS委員長に選出された。(4日 The Standard)
- 14日、ジャメ前大統領政権時代に、野党UDP党首等を暗殺したとされる国家情報局長他5名に死刑判決が出された。(14日 RFI)
- 22日、国際司法裁判所(ICJ)は、ロヒンギャ族迫害問題を巡り、ガンビアがミャンマーを提訴した事案につき、ICJの管轄権を認め、今後、審理に入る。(22日 RFI)

ギニアビサウ

- 3日、ECOWAS首脳会議(ガーナ)で、エンバロ大統領が次期議長(国)に選出された。対マリ禁輸も解除された。(4日 Africa News)
- エンバロ大統領は、セネガル野党連合の指導者のソコPASTEF党首と会談し両国の内政及びアフリカ地域の問題について意見交換した。(9-10日 LeSoleil)
- ギニアビサウ選挙当局幹部は、匿名で、選挙人登録用の機材が不足しており、12月18日の国民議会選挙の予定通りの実施は難しい旨述べた。(17日 RFI)
- エンバロ大統領(ECOWAS議長)は20日、ギニアを訪問し、ドゥンブヤ大佐(暫定大統領)をはじめとする暫定政府関係者等と意見交換を行った。(23日 ECOWASコミュニケ)
- エンバロ大統領(ECOWAS議長)は、先週末、訪問先のブルキナファソで、政権関係者と軍事政権下のブルキナファソとギニアへの制裁緩和等について議論した。(26日 WalfQuotidien)
- 27日、伊澤日本国大使は、ギニアビサウのエンバロ大統領に信任状を捧呈した。(27日 日本大使館Twitter)
- マクロン仏大統領は、28日、ギニアビサウを訪問し、同国における兵士の訓練を支援し、テロとの闘いにおいてもECOWASに引き続き貢献する旨述べた。(28日 RFI)
- ギニアの暫定軍事政権は、エンバロECOWAS議長(ギニアビサウ大統領)が公表した(36か月から)24か月への民政移行期間の受け入れを否定した(30-31日 WalfQuotidien)

(注) 本月報は、セネガル、カーボベルデ、ガンビア、ギニアビサウの報道を当館限りでまとめたものです。記事内容は、日本政府やセネガル政府の公式見解と異なる場合がありますが、当館では文責は負いかねますのでご了承下さい。

(了)